

自然との共存をめざして

“美しく豊かな自然との共存”。NAOCが掲げる大会基本理念にもあるように恵まれた白馬の自然を保護し、自然と調和のとれたオリンピック開催を実現していくことが私たちの願いでした。クロスカントリー競技場の建設にあたってこの基本理念に沿って様々な取り組みや工夫を行いました。

- ワシントン条約で保護が図られているオオタカの営巣が確認されたことにより、生息エリアを保護するためコース計画を変更しました。
- 貴重な植物、直径50cm以上の大径木は極力外してコース設定を行い、やむを得ずコースにあたってしまった貴重種は移植しました。
- 競技場内の法面は表土を復元し、在来種による緑化を行いました。
- コンクリート構造物は極力控え、木造建築としています。
- オリンピック後の利用計画として、メイン会場は多目的広場にAコースは自然散策路、Bコースはマウンテンバイク、Cコースはローラースキーコースと設定しました。
- 平成4年8月～平成6年3月 環境アセスメント
- 平成5年5月26日 県自然保護検討会議現地調査
- 平成6年4月～平成11年 環境アセスメント・モニタリング
- 平成6年11月 貴重種移植/カタクリ移植 約3,000株/ビッチュウフウ口移植 110株/ドンブリ植栽

白馬クロスカントリー競技場の概要

敷地面積	38.6ha
コース概要	延長13.4km 内訳 ●Aコース4.8km ●Cコース7.8km メイン会場周回コース 0.8km (400m×2周) 多目的コース 最長2.2km 芝生グラウンド サッカーコート3面分
事業費	約70億円
付帯施設	●管理棟 鉄骨造地上3階建1,271.8㎡ ●機械棟(圧雪車庫) 鉄骨造634.1㎡ ●屋外放送施設 一式 ●屋外照明施設 一式 ●国旗掲揚棟 10基
工事実施期間	平成6年8月～平成8年11月 平成26年6月～平成27年6月
公認関係	●平成6年5月FISクロスカントリー委員による現地調査で、コース設計の認証を受ける ●平成7年11月SAJよりコース認証を受ける ●平成9年1月FISよりコース認証を受ける



使用用途	単位	料金
夏期／多目的コース、その他コース 冬季／クロスカントリーコース	1日／人	300円
芝生グラウンド	サッカー 中学生以下	3時間／1面 10,000円
	等の球技 一般	3時間／1面 20,000円
	球技以外の軽スポーツ等	3時間／1面 5,000円
	イベント広場としての使用	3時間／全面 30,000円
クロスカントリー大会等	1日占用	75,000円
会議室	1時間／部屋	400円

スノーハープ管理事務所

長野県北安曇郡白馬村大字神城3003

TEL.0261-75-3934 FAX.0261-75-3663

白馬村役場生涯学習スポーツ課

長野県北安曇郡白馬村大字北城7025

TEL.0261-85-0726 FAX.0261-85-0723

白馬クロスカントリー 競技場 スノーハープ

INFORMATION

1998年長野冬季オリンピック/パラリンピック
クロスカントリースキー、ノルディックコンパインド競技会場

2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会長野
クロスカントリースキー競技会場



白馬村

クロスカントリーコース平面図 CrossCountry

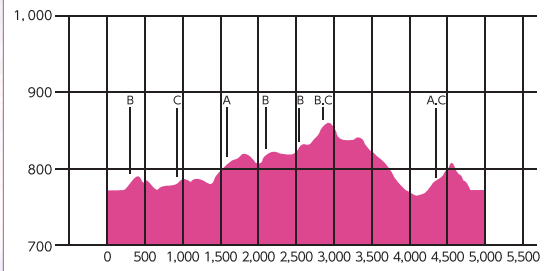
凡例	全長(m)	合計登高(m)
Aコース	5,006m	195m
Cコース	4,990m	180m

クロスカントリー

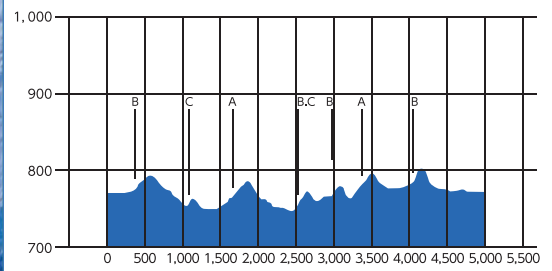
白馬盆地の東側山地の山すそに開かれたこの競技場には、A・C(延長13.4km、幅6m)の2つのコースがあります。競技は、スタート・フィニッシュ地点となるメイン会場を中心に、これら2つのコースを組み合わせることが可能です。周回コースとなるため、選手がメイン会場に戻ってくる回数が多く、観客にとってもエキサイティングなレースが楽しめます。

Aコース

※夏期はランニングコースとしても一部利用可能

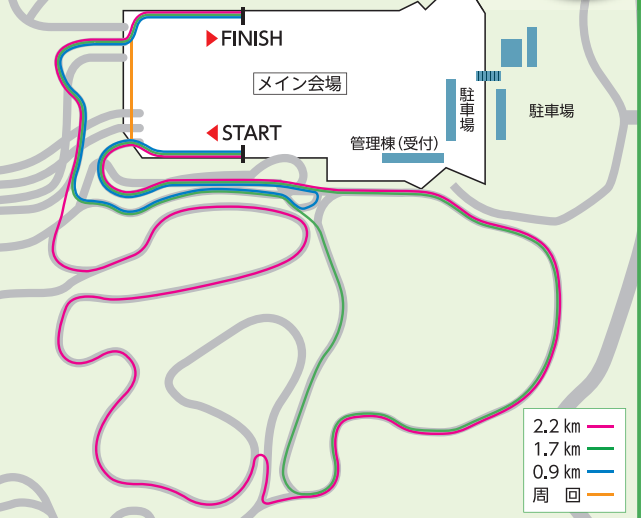


Cコース



多目的コース平面図

平成27年度にオープンした多目的コースでは最長で2.2kmのアスファルト舗装のコースとなっており、ローラースキーやインラインスケート等での利用が可能です。



夏
 SUMMER

